様式１－１

文化遺産総合活用推進事業　実施計画

1 都道府県・市区町村名	沖縄県　宮古島市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	“海洋池間民族”の歴史と生活文化伝承・活用事業		
4 実施計画期間	平成　29　年度　～　平成　31　年度		
5 実施計画の概要			

１．上位計画の整理

（１）文化財の活用

平成20年3月に策定された10カ年計画、『第１次宮古島市総合計画』では、「個性豊かな文化をはぐくみ、一人ひとりが輝く島」を基本目標に、“宮古の地理的条件や自然、歴史、文化などの地域の特性を活かした農林水産業、観光商工業の振興を図り、住民が元気で働き、活力あふれる島づくりを進める”とし、「自然」「歴史」「文化」を「地域の活力」に活かす内容の基本理念と、まちの将来像を定めている。

＜基本理念＞

○住む人が健康で、安心・安全な美しい誇れる島づくり
○交流と連携による活力あふれる元気な島づくり
○地域の特性が活かされ、心のかよう結いの島づくり

＜まちの将来像（目指す姿）＞

地域社会を構成する人、まち、自然がともに健康であることを基盤とし、本市の優れた特性を活かし、ともに支え合い、ともに生きる「結い」の精神を大切にしながら、他地域との幅広い交流を通して活力あるまち、未来を創造していくまちづくりを目指す

こころつなぐ結（ゆ）いの島みゃーく（宮古）
～みんなでつくる 元気で誇れる島づくり～

＜文化財等の活用方針＞

また、基本計画【後期計画】（目標年度平成24～28年度）第３章４節「芸術文化の振興と文化財の保護、活用の推進」には、宮古島市の文化財活用政策について以下のような記述がある。

○市指定文化財件数は145 件となり、市町村単位では県内最多である。
○さらに未指定の文化財も多く、これらの保護・管理が今後の課題となっている。
○集落や地域における若者の減少により、有形・無形の民俗文化財や民俗行事等の担い手が少なく、その存続が懸念されている。
○これら課題に対応し、文化財に関する資料の収集・展示・保管・調査研究等を行うとともに、本市の歴史・伝統文化を市民に広く伝えられるように努める。
○先人の残した文化財を貴重な財産として守り、次代に引き継ぐため、文化財保護思想の普及・高揚に努める。
○文化財の保全・修理をはじめ、周辺環境整備に努める。
○各地域に伝わる祭事等の芸能や習俗、伝統芸能や伝統工芸を支える技能・技術の保存に向け、伝承者の育成を支援する。
○文化財資料室及び市史編さん室の整備を行い、各施設に散在する民俗文化財、発掘遺物、史料等を集約整理し、市民がいつでも閲覧できるように勤める。

（２）観光関連の基本計画

一方、市の観光振興に関する基本計画【後期計画】第２章２節においては、施策の基本方針について以下のような記載がある。

○恵まれた自然環境を保全するとともに、美しい観光地、清潔な観光施設の維持に努め、観光客の受け入れ環境を充実する。
○他産業と連携した体験滞在型観光を推進し、民泊や教育旅行を積極的に展開する。

２．実施計画の概要

上記の宮古島市上位計画を踏まえ、以下のように実施計画を策定する。

＜背景＞

○順調に伸びる観光客数

・伊良部大橋効果で沖縄県の中で宮古島が注目を浴びている。
・年間観光客数42万人(H26)→51万人(H27)→57万人(H28予測、クルーズ船除く)と急増中。
・那覇(沖縄本島)や八重山観光を経験したリピーターが、マイナー観光地だった宮古島に流入。

○人口5万人の市ながら地元出身者比率が高く、昔ながらの離島の暮らしや風習が多く残る

・同じ離島でも石垣市と比較しても島民の地元出身者比率が極めて高く(7～8割)、昔ながらの慣習や祭事行事が多く残されている。
・羽田や関空に直行便が飛ぶ離島の中でも、観光客を含む来島者が、離島の文化遺産や生活文化を身近に感じ触れることができることは大きなアドバンテージである。

＜地域の課題＞

○離島らしい生活スタイル、独自の歴史・文化遺産など宮古島の魅力が観光客に伝わっていない

・宮古島は沖縄県の真ん中に位置しているため、14世紀以降の琉球政府の先島当地の時代、大きな歴史の舞台としてクローズアップされ、その時代の遺産が多く残る。また、明治35年まで人頭税に苦しめられていたため、沖縄本島と比べても近代化が遅れた歴史がある。その分、御嶽や伝統芸能などの生活文化が今でも色濃く残されているが、これまで観光面での焦点が当たっていなかった。
・「海がきれいな宮古島」という評価は得ているが、海に入れないシーズンに観光の弱みがある。
・マリンアクティビティ以外のまち歩き、体験プログラムなど新たな観光スタイルの提供が不十分。
・離島らしい歴史・文化遺産や生活文化はあるが、観光客との接点がなく十分に活用されていない。

＜基本方針＞

○宮古島を第２の故郷として何度も訪れ、移住したくなる特別な島と感じてもらうために

→観光客急増、宮古島初心者への新たな地域イメージ＝「歴史・文化遺産が豊かな離島・宮古島」
→そのために、住民活動が盛んで観光客受け入れに適している地区で、文化遺産等を活用したプログラムを提供し、体験交流型の観光による地域活性化に取り組むことが効果的。
→島民との交流や、生活文化を深く理解する体験を通じて、「住んで良し、訪れて良しの宮古島」を具現化、地域活性化につなげるとともに、地域内の次世代への文化伝承や雇用創出も実現する。

＜対象地区＞宮古島市平良「西原地区」

・宮古島の中でも個性的な歴史を持つ“海洋池間民族”。その最後の村立て(明治6年分村)で成立した宮古島市平良西原地区を対象とする。

※選定理由

・集落ぐるみで民泊を受け入れており(平成27年度＝12校・1,000人)、今後も観光客受け入れによる地域活性化に取り組む意欲が強い。
・集落単位での公民館活動日数・人数が市内でも特に多く、西原自治会以外にも、みどり会(老人会)、コーラスゆりの会、一球会(青年部)などの住民組織が多く活動も活発。
・海洋池間民族の最後の村立て(明治6年)で成立した集落で、歴史が比較的新しく詳細な記録、文化遺産が明確に残っており、その伝承もしっかりしている。
・また海洋で生業をたてていた島民（池間島、伊良部島佐良浜）が農業に取り組むこととなったため、他の池間民族の漁師町(池間、佐良浜)とは異なる独自の生活文化、祭事行事、伝統芸能を培ってきている。特に御嶽とそれらにまつわる祭事行事、豊富な古謡、綾語(アーグ)、伝統舞踊などが豊富に存在する。
・宮古島の中心地である平良市街から近く、池間島への観光ルート上に位置し、観光客を誘致しやすいアクセス有利＝事業成立性が高い立地（立ち寄り観光、体験交流、飲食に向く）。

＜活用する地区の文化遺産等＞

○個性的な歴史資源‥‥池間民族の最後の「村立て(明治6年)」
○古謡・綾語、伝統芸能‥‥市内随一を誇る公民館活動
○御嶽と祭事行事‥‥海洋民族がつくった農業を基盤とする生活文化‥‥独自進化を遂げる

【参考①】西原地区の概要

＜位置＞
宮古島市平良西原
宮古島市役所から北へ約7km(車10分)

＜人口・世帯＞
世帯数448世帯、住民基本台帳人口879人

＜歴史＞
1873（明治6）年、池間島の人口が増えたため、現在の場所に新しい村を建て、西原とした。
村立て（村分け）は、琉球王府の租税確保、先島経営強化策として勧められたもので、西原村は歴史上最後の村立てである。

＜海洋池間民族＞
池間民族とは、 池間島とそこから移住・分村した佐良浜・西原 の人々の総称。
元島・池間島からの分村はの歴史は、首里王府宮古頭の命により、1720年、伊良部島に佐良浜村が村立てされ、本村（元島）池間島から14戸が 強制移住させられたことに始まる。1874年には宮古島ユクダキ（横竹）に西 原（西辺）村が創建され、本村（元島）から35 戸、分村佐良浜から15戸が移住した。
池間民族は現在、主に池間島と伊良部島の佐良浜、宮古島の西原に住んでおり、ナナムイ（大主神社）の神への信仰やミャークヅツ、言葉や池間系という自己認識など、緊密な関係がある。
現在でも年に1度「池間民族の集い」を3村回り持ちで開催し親村・兄弟村としての変わらぬ交流と結束を確認あっている。

＜暮らし＞
もともと漁業で暮らしを立ててきた池間民族。自らを“海洋池間民族”と称し、元島の池間と先に村立てした佐良浜は現在の漁業を生業とする集落である。ところが西原は内陸部に位置しており、サトウキビなど農業を中心とする暮らしをせざるを得なかった。そのため、西原は他の池間民族の集落と同じナナムイの神をあがめる信仰は変わらないが、その祭りであるミャークヅツや御嶽の祭礼などには独自の様式が加わっている。

＜文化・文化財＞
ミャークヅツ、集落内の御嶽、祭事行事の神唄・古謡、お祝いの席等での伝統舞踊　など。

池間民族最大の祭りミャークヅツ

池間民族のマーク

西原の古謡を集めた音楽CD

【参考②】公民館利用状況と住民組織の概要

・西原公民館（ホール）の年間利用日数＝246日（平成27年度）、延べ利用人数は10863人。
・主な住民組織の概要は以下のとおり。
○みどり会＝老人会。主に西原地区の古謡、綾語(アーグ)、伝統舞踊の伝承活動を行いながら、地域の高齢者の親睦と健康づくりに取り組んでいる。
○コーラスゆりの会＝みどり会とも共通のメンバーで、特に古謡を中心にコーラス活動を行っている。2014年にはアメリカの音楽イベントに招聘され話題となった。
○一球会＝30歳未満の若者グループ。地区の自治会青年部の役割を担う。地域イベントの企画運営から敬老会に至るまで、若手が中心となって地域活動を盛り立てている。ＯＢも多数いる。

＜実施計画の概要＞

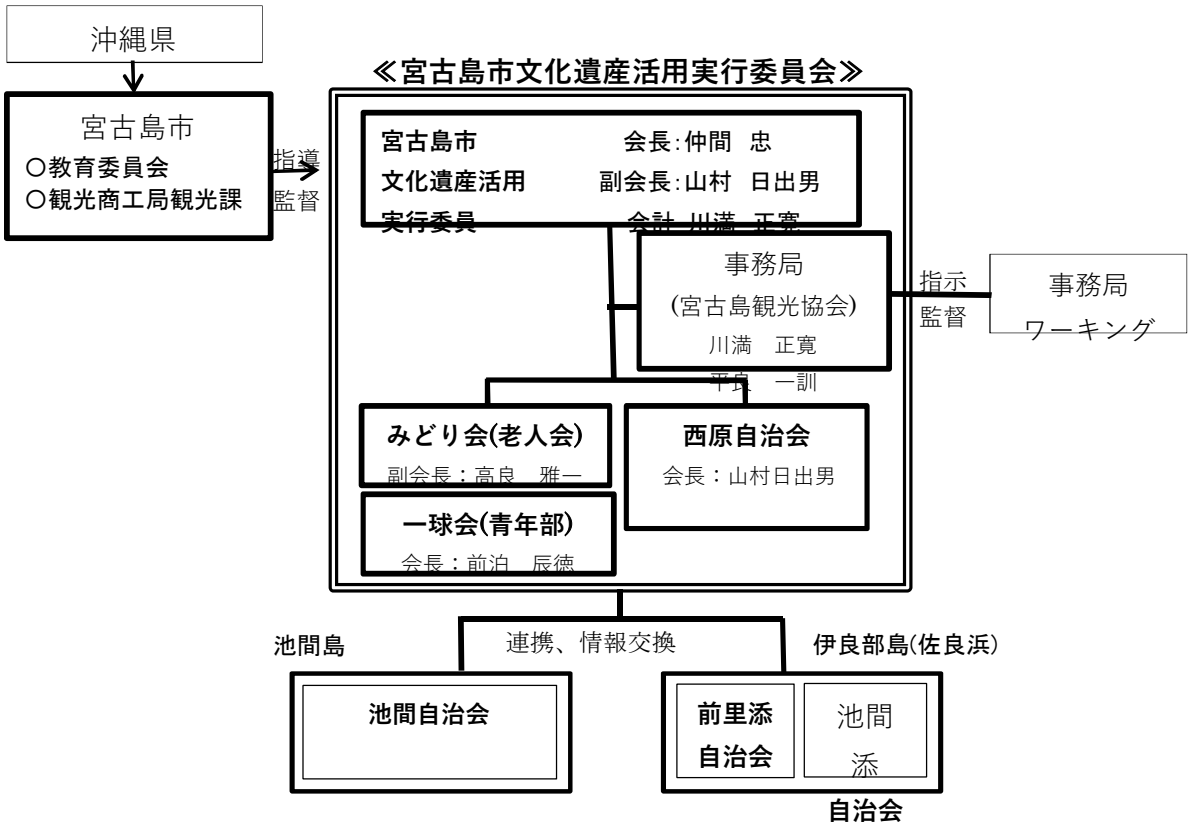
１年目（平成29年度） 情報発信事業

（１）住民が主体となった「西原のたからものマップ」づくりのための情報収集・整理

・地区内住民団体(西原自治会、みどりの会、コーラスゆりの会、一球会等)主導による住民主体の「西原のたからもの」ヒアリングおよび現地調査を実施し、「地区の歴史・文化資源」の再認識を行うとともに、地域資源（文化財含む）の活用のあり方について話し合い、合意形成を図る。
・特に、以下の資源については、既往文献や関連資料を収集整理し、来訪者や地区の子どもたちにも理解しやすい資料として編集する。
　○明治6年に池間島より村分けした歴史
　○御嶽と祭事行事、伝承・昔話
　○島の暮らし、漁業と農業、衣・食・住
　○古謡、綾語(アーグ)、伝統舞踊
・それらの情報を、地区の文化遺産等を掲載したマップづくりにつなげ、住民自らまち歩きや体験交流プログラムなどに活用・伝承していくためのツールにする。

（２）「西原のたからもの」マップの製作

・上記ワークショップの成果を中心に、西原の文化遺産や地域資源を網羅したマップを製作する。
・マップは、単なる地図情報だけでなく、西原の村立て～農地開墾、衣食住などの暮らし、祭事や年中行事、伝統芸能や雇用など、西原地区の文化遺産や生活文化全般を紹介する成果品として取りまとめる。



＜説明＞
・宮古島市(観光課、教育委員会)が、実施計画全体の調整・指導等を行う。
・事業は、宮古島観光協会が事務局(業務の進捗及び予算執行管理)となり、上図の体制で実施。
・池間自治会と前里添・池間添自治会は、宮古島市文化遺産活用実行委員会と普段より情報交換を行う。
（特に3年目に予定しているの取り組みに際しては、連携を密にしシンポジウムを開催)。

7 実施計画における目標と期待される効果	別紙①のとおり

8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 4,365 千円	平成29年度申請額： 2,260 千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり	

9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）

・地域住民が主体的にヒアリングや現地調査を行うことにより、自らの地域の文化遺産や地域資源を再認識する機会が生まれ、内発的な地域活性化に向けた住民同士の求心力が高まる。
・地域の歴史や文化遺産に関する既往文献や関連資料を整理編集し、外来者や子供にもわかりやすく表現（「西原のたからものマップ」）するツールができることで、地域に対する誇りや愛着が生まれ、コミュニティが活性化する。
・宮古島の個性である離島の生活文化に関する地域資源を活用した体験交流プログラムに活用可能な「西原のたからもの」マップが提供されることで、質の高い観光地づくりに寄与するとともに、市が標榜する「住んで良し、訪れて良し」の地域づくりが加速する。

10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）

事業概要：	
事業概要：	
事業概要：	

11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等

現在のところ、特になし。

12 担当部局

地方公共団体担当部局課	観光商工局観光課

7 実施計画における目標と期待される効果　別紙

目標区分１：	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化				
評価指標区分１：	その他　（具体的な指標は次のとおり）				
具体的な指標１：	民泊(体験交流事業)受入れ登録民家数		関連事業:	“海洋池間民族”の歴史と生活文化伝承・活用事業	
目標値１：	平成　28　年度　20　軒　⇒　平成　31　年度　28　軒				
設定根拠１：	事業開始前年の平成28年度20軒に対し、毎年2割アップ×2年で算出				
進捗状況１：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成　年度	平成　年度	平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度
軒	軒	軒	軒	軒	軒
目標区分２：	地域の文化資源を活用した集客・交流				
評価指標区分２：	地域の文化遺産への来場者数　（具体的な指標は次のとおり）				
具体的な指標２：	修学旅行以外の西原地区への交流者数		関連事業:	“海洋池間民族”の歴史と生活文化伝承・活用事業	
目標値２：	平成　28　年度　0　人/年　⇒　平成　31　年度　20　人/年				
設定根拠２：	大人の民泊の受入れに取り組む。初年度として4人×5組				
進捗状況２：	各年度、状況値、目標に対する達成率				
平成　年度	平成　年度	平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度
人/年	人/年	人/年	人/年	人/年	人/年

様式１－１別紙②

8（2）実施事業の概要　別紙

事業①：	“海洋池間民族”の歴史と生活文化伝承・活用事業	実施団体：	宮古島市文化遺産活用実行委員会
事業区分：	情報発信	事業期間：	平成　29　年度　～　平成　31　年度
事業概要：	「西原のたからもの」マップの製作		
評価指標区分：	・その他		（具体的な指標は次のとおり）
具体的な指標：	マップを活用した文化遺産活用等プログラム（自主事業）への参加者数		
目標値：	平成　28　年度　0　人/年　⇒　平成　31　年度　100　人/年		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率		

平成　年度	平成　年度	平成　29　年度	平成　30　年度	平成　31　年度	平成　32　年度
人/年	人/年	人/年	人/年	人/年	人/年